

フォトコンテスト審査会

と き 令和4年10月6日(木)

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告: 常任理事 長谷川奈津江]

対外広報事業として、「いのち きずな やさしさ」をテーマにしたフォトコンテストを今年度も開催した。応募者を「山口県内在住の方のみ」に限定させていただいているが、51名の方から、計129作品のご応募をいただいた。

今回も審査委員長として、写真集『結界』で第34回^{どもんけん}土門拳賞を受賞されている萩市在住の写真家下瀬信雄氏を迎え、審査員には加藤智栄会長、沖中芳彦・中村 洋 両副会長、藤原 崇・岡 紳爾 両理事、そして広報委員の渡邊恵幸先生、岸本千種先生、石田 健先生、吉川功一先生、岡山智亮先生、藤村智之先生にお願いした。

審査会当日、会議室に並べられたすべての作品を見てみると、愛情の込められた、心を癒してくれる写真ばかりであった。この中から、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞各1点及び佳作4点の計9点の選考を開始した。

審査方法は例年同様、まず、各審査員に付箋9枚を配付し、自分が気に入った作品に貼るというものである。各審査員はそれぞれの感性を活かして、真剣な面持ちで次々に付箋を貼り付けていった。年々、力作揃いで選ぶのが困難になってきており、皆さん、悩みに悩んで選ばれている姿が印象的だった。付箋が貼られた作品を集め、



下瀬審査委員長の進行のもと、審査が進められた。被写体の表情、構図、光の使い方だけでなく、それを通して伝わる撮影者の「伝えたいメッセージ」がわかる、あるいは「発見」や「感動」がはつきり出ている作品が審査員の心を捉えたようである。審査開始から約50分後、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞の各1点及び佳作4点の各受賞作品が決定した。

なお、受賞作品については、11月13日に開催した県民公開講座(次頁)にて表彰式を行い、下瀬審査委員長に講評を行っていただき、応募いただいたすべての作品展示も同時に開催した。

ご応募いただいた皆さま、審査員の皆さまに深く感謝いたします。

